

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念に基づき個別性の重視および個別支援に反映出来るよう努力している。	事業所独自の運営理念が作りあげられており、玄関・事務室に掲示しています。また、理念が実践できるよう、ミーティングでも職員と一緒にユニットの年度目標を設定しています。	職員にユニットの目標を浸透できるように、定期的に確認及び振り返りの機会を設けられることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の除草活動、防災訓練、新発田まつり子供会との交流、地域作品展、小学校文化祭等参加させて貰った。	ご利用者と一緒に町内の防災訓練やカラオケ大会に参加したり、町内の作品展へのご利用者の作品の出展や、近隣の小学校の文化祭にも出かけるなど、積極的な地域交流が行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学で来所された方々に認知症の理解や支援の方法などの話をさせて貰っている。2月、10月に市の民生委員研修会の場でお話させて貰った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者様活動内容、事故、ヒヤリハット報告等させて頂き、サービス向上に努力している。	民生委員・町内会長・地域包括支援センター職員などに参加していただき、2ヶ月に1回定期的に開催しています。事業所からの事故やヒヤリハット、活動報告に加え、参加者からも意見や要望を確認し、サービスの質の向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センター長に参加して頂いている。市より介護相談員の訪問を受け入れている。	包括支援センター職員に運営推進会議に参加して頂いているほか、市の介護相談員にも定期的に訪問していただくなど、協力関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い努力しております。市主催の研修会等も参加し身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束を行わない方針のもと、玄関の施錠も夜間のみとしています。また、言葉の抑制についても職員会議の場で周知・徹底したり、身体拘束に関する研修の機会も設けるなどして身体拘束に関する理解を深めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の視界に入る場所に虐待に関わる内容を掲示しています。また職員の馴れ合いが無意識な行為に陥らない様、注意喚起を行っている。	虐待防止に関する外部研修への参加や定例会議での話し合いにより、職員への周知徹底が図られています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	7月に成年後見制度の研修を受講しているが活用までには至っていない。家族への情報提供は行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、当ホームの説明等し納得して頂き入居して頂く。入居時、契約書の重要事項を十分な時間をかけ説明させて貰い、納得して頂き、契約して頂く。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時は気軽に意見や要望を聞けるよう職員全員で取り組んでおり、敬老会、クリスマス会等、家族の意見をお聞きしている。	意見箱の設置、面会時・受診時でのやりとり、ホームの敬老会やクリスマス会にもご家族に参加して頂き要望を確認し、頂いた要望をサービスに反映できるようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、夏期、冬期の人事考課を行い、個別面談をし又必要に応じて話し合いの場を設けている。	管理者は日常的に職員からの意見や提案を確認しているほか、毎月の職員会議では居室担当職員よりご利用者の支援に関する改善提案を発表してもらうなど、職員からの意見を運営に活かす取り組みが行われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個々の実績、勤務の考課と自己評価を実践し職員の勤務状況の把握に努め、業務を再確認し改善提案を全員に出してもらいミーティングで話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自自己チェック表で振り返りを行った。法人内、外の研修を受け常に力量の把握に努めている。事例発表もやらせて貰った(千葉県にて)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実習生の交換等で他施設との交流を行っている。複数の事業所と連携をとり、事業等の研修会の参加をさせて貰っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の事を良く知る為にも常に何が必要なかを観察していて、言葉に出来る利用者様には要望等に耳を傾け安心して生活できるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時やその都度サービス担当者会議をして、家族の要望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要で、この様なサービスもあると情報提供を行い、今何が出来るか考えた支援に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や昔の慣わし等を教えて頂いたり、一緒に何かをする、何かを作る事で支え合う関係を築いている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	要望があれば家族と一緒に泊まって頂いたり必要な物を買って頂いたりして職員と家族共にして支えて行く環境作りをしている。	よく面会に来ていただけるご家族や、ご利用者と一緒に外食や買い物に出かけるご家族もいます。近況の状況を個別のお手紙や事業所広報、面会時やお電話にてお伝えしたり、運営推進会議や敬老会にもご家族に参加して頂くなど、事業所とご家族が協力してご利用者を支える関係づくりが行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会出来、手紙や電話等のやり取りが行える。お墓参りや外泊等もされ、ご家族にご希望があれば泊まって頂いている。	これまでの関係が継続できるよう知人や親族の面会の受入や、ご家族にも協力して頂き、行きつけの美容室への利用支援やホームに泊って頂いたり、好きな歌手のコンサートを観に出かけるなどの支援も行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士の作業レクだったり食席を考えていて、トラブルが起きない様な場所を心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了後も相談時、管理者がアドバイスして支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の話は把握して、本人の立場になって毎月の定例会で検討し、支援している。	ご利用者との日々のやりとりの中で要望を確認し、毎月の職員会議でもご利用者のカンファレンスを行い、意向に沿った支援ができるように取り組んでいます。	介護計画に関して、ご家族からの意向の確認がどのように行われているかが不明でしたので、記録に残されることを期待します。
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様や家族に生活習慣や好きな物、趣味等を聞き、日常生活や出来る事を把握して本人に満足して頂けるよう努めている、また季節に応じて行事を計画して活動している。	契約時にご利用者、ご家族より情報収集を行い、これまでの生活歴や暮らし方、嗜好を把握しています。ご利用者の情報についても定期的に見直しの機会を設け、日々のご利用者とのやりとりで得られた情報も追加しています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の日々の生活状態を把握し今日出来る事を声掛けして残存能力を活かし、カンファレンスに反映して見直しをしている。洗濯たたみ、茶碗拭き、テーブル拭き。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例会で居担は状態と課題提出、職員全員で日々の観察で必要なケア検討して内容をまとめて決め、6ヶ月/回カンファレンス、1ヶ月/回のモニタリングを行っている。	居室担当が毎月モニタリングを行っており、ミーティングの際に情報交換を行っています。状態の変化に合わせてケアプランの見直しも行っているほか、ご利用者に合わせ6ヶ月に1度、サービス担当者会議を開催し、ケアプランの検討を行っています。	毎月のモニタリングが介護計画の短期目標に記載されていない内容を評価している箇所もありましたので、職員に介護計画を周知されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を把握して、本人の状態が変われば記録して入浴、食事、排泄、体調など職員内で申し送りして共有し月1回モニタリングで見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて受診、往診して頂き、薬は貰いに行き、理髪はホームで行っている。ホームで入浴出来ない時はショート風呂を利用し、気分転換で回転寿司、コンサート鑑賞を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の回覧があり、夏祭り、文化祭への参加し、市主催のあやめ学級の参加も支援させて貰っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご家族様に依頼し、その際、医療連携の健康管理表を用意し利用者様の状態を伝えている。医療連携パスを行っている主治医もいる。	それぞれのかかりつけ医への受診はご家族を介してバイタル表及び医療連携表にて医師との情報交換が行われています。また、ホームに往診にも来て頂いているほか、状況に応じて職員による受診同行も行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師訪問あり、その際利用者様の状態を伝え、相談を常に行い、重度な方の入浴介助、指導等も看護師の協力で行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との関係はもちろん、利用者様、ご家族様が安心して頂けるよう、相談、面会を密に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームで出来る事を明確にご家族様に説明し、話し合いを重ねている。職員は情報を共有化し、主治医へ往診のお願い等話し合いをさせて貰っている。	「重度化および看取り介護における対応指針」を作成しており、現状で対応可能な範囲を明確にし、状態に応じてご本人・ご家族に説明を行い、理解を得た上での対応が取られています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要時、研修を行い、実践力を身に付けている。病名についての勉強会を行った。	職員には普通救命講習を受講してもらっており、緊急時に適切な初期対応ができるようにされています。また、緊急対応・緊急連絡に関する文章も作成され、分かりやすく掲示されています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行い、夜間対応も1回実施し、運営委員会議等で話し合いをさせて貰った。	年に2回、夜間の火災や日中の火災を想定した避難訓練も行われているほか、地域の防災訓練にもご利用者と一緒に参加しました。	地域の方にもホームの避難訓練への参加を呼びかけられることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	広報の写真掲載の同意書を貰っている。一人一人に合った、声掛けや関わり方を行うよう努める。	入社時の「個人情報保護」の研修や法人内での接遇の研修会に加え、ご利用者を尊重した言葉遣いの徹底が定例会議にて行われています。ご利用者の写真の広報への掲載についても同意を得られていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	新聞チラシを見て食べたい物等要望ある時は対応している。日常の中で利用者様自身に選んで頂ける様な場面を作る様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴など、決まっているからと言って入れるのではなく利用者様に聞いてどうしたいのか決めて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パーマ屋さんに行きたい等、話があった際には家族の方に話し、こちらでパーマ屋さんに行ける様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	こちらからやって貰うのではなく、利用者様がしたい時に手伝って頂ける様に努めている。	ご利用者個々の力を活かし、食材の下ごしらえや盛付け、食器洗いなどの活躍できる場面作りを行い、職員と一緒に楽しみながら食事をされています。また、回転寿司に外出に行ったり、ずんだもち作りやちまき作りもご利用者と一緒に行い、食事が楽しみなものになるよう努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が少ない方には好んだ飲み物を提供したり、声掛けをしたりし努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、自力で出来ない方は介助し、出来る方には声掛けにて行って頂いております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はレクや日常生活での軽作業等で身体を動かして頂き、機能低下を防ぐ様にし、尿意、便意がある人は常時、そうでない人も声掛けを行い、トイレでの排泄支援を行っている。	排泄チェックにより排泄リズムや行動パターンを把握してトイレ誘導を行うことで、排泄の自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の水分摂取量のチェックを行い、食事の際も野菜やヨーグルトを多めに提供し又体調に合わせ、体操や軽作業を一緒に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	立位歩行が難しい人は2人介助で入浴して頂き、出来るだけ利用者様が平等に入浴して、お風呂に安全に楽しく入って貰える様に心掛けている。	入浴の曜日や時間は指定せず、ご利用者一人ひとりの希望に沿った入浴支援が行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も個人の体調に合わせ横になって頂く事もあり、夜間は定時の巡視と体位変換オムツ交換を行い支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬のセットをする機会があり、毎日他の職員が利用者様が服薬する前に薬の確認を行い、間違いなく内服出来るよう心掛けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	押し花や歌のレクを行い賑やかに過ごされています。日常生活ではテーブル拭きや茶碗拭き、洗濯たみ等の軽作業を提供し役割のある生活を心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	医療機関や買い物時の付き添いの他、利用者様で希望がある方はコンサート等にも同行し支援している。また、小学校の展覧会、地域の作品展などに参加している。	散歩・買い物などの日常的な外出に加え、地域の行事・外食・季節に合わせてお花見やあやめ見学へのドライブなどの外出の機会も設けられています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時は現金を本人に渡しており、本人の欲しい物を買って来たり、外食時は自由に使って貰っている。常にお預かり、保管させて貰っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が来たら本人に渡し、返信したいと言ったら返信の支援をし、電話は自由に使って貰っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に整理、整頓、清潔に気を配り、生花をいけたり、季節の飾り等を置いている。クラシックを聴きながらくつろいでいる方もいる。	各ユニットが別棟になっており、季節に合わせたお花を飾ったり、ご利用者が作成した押し花の作品を飾るなど、程よい装飾がされており、居心地よく過ごせるよう工夫されています。	調査時点で、ユニットの掲示物や換気口等に汚れが気になる箇所もありましたので、定期的に確認されることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の居室で休まれたり、利用者様同士が居室に訪ねお茶飲み等されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好み掛け軸等を掛け楽しんでいる方もいる。入居時、今まで使っていた家具、寝具等を持って来て貰い、居室に置き使用して貰っている。ご主人の遺影を飾って花を供えている方もいる。	全ての居室から敷地内の日本庭園が見えるよう工夫されています。また、ご利用者の意向により異なりますが、これまで使い慣れた家具などを持ち込み、自分の家のように楽しめるお部屋作りがされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく、出来る事をして貰う。(洗濯たたみ、食器拭き等)ご自分の居室が分からない方には矢印等をさせて貰っている。		